

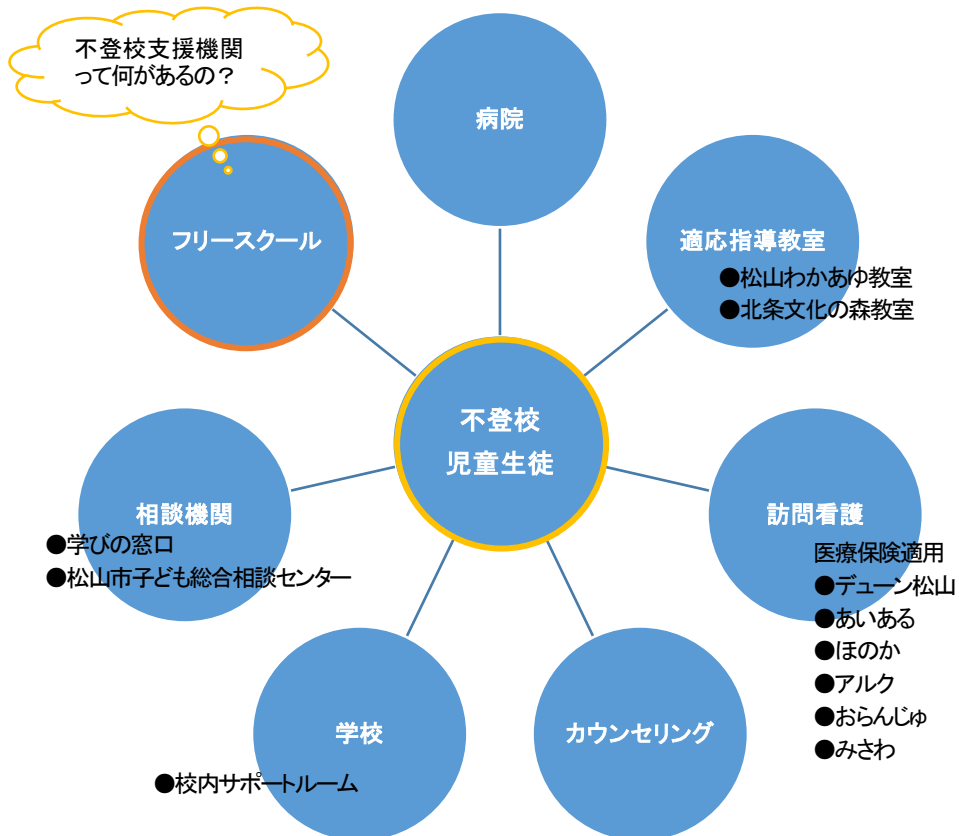
★★★活動紹介★★★

2022年11月26日(土)、フリースクール「エリート」代表の孕石修也氏に、フリースクールについて講話をしていただきました。

「平日昼間の学校以外の居場所・学び場の必要性を感じ、2019年4月にフリースクールエリートを開所しました。現在38名の児童生徒が在籍し、毎日25名程度が通所しています。発達障害のある児童生徒が半数近く占めているからこそこのパワフルな学び場を、みなさんにご紹介できればと思います。」

(孕石氏より)

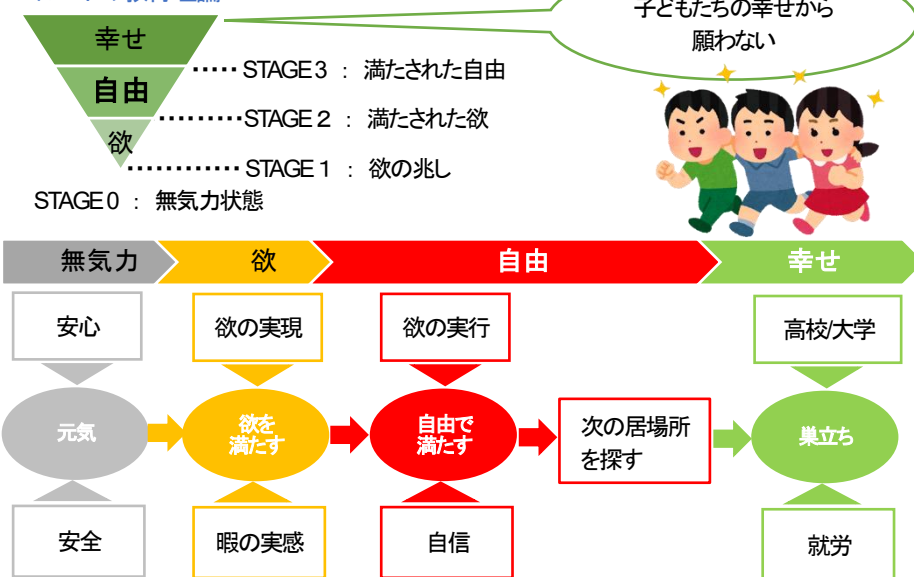
『フリースクールってどんなところ？～エリートの活動と自立支援～』



フリースクールとは何か？

- ①平日昼間の居場所……不登校児童生徒のための平日昼間の居場所。定期的に開校されていること
- ②活動内容は自由……学習メインのところから体験活動メインのところまで、活動内容はいろいろ
- ③法人格の有無を問わない……NPO法人が多いが、一般社団法人や個人事業主として活動されている方も
- ④出席扱いになる……在籍校の学校長判断で出席扱いになる。調査書点に反映されることも

エリートの教育理論



「個々が自由を感じ、他者の自由のために行動し、巣立っていくこと」を理念とし、無気力な状態から自由で満たされていくまでを段階別に伴走している。

子どもたちの回復のステップ 参考文献:石井光太(2022)『ルポ 誰が国語力を殺すのか』文藝春秋

不登校、ゲーム依存、非行から共通する回復支援

- ① 劣悪な環境で言葉が失う
- ② 子どもを安全地帯(心理的安全性)に置く
- ③ 五感を刺激しながら言葉と思考のリハビリを行う
- ④ 言葉による成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める
- ⑤ 実社会での生きがいや希望を見出させる



エリートの実践

- ・安心安全な場所で、欲が出てくるまで待つ。
- ・年間300以上の「やりたいことリスト」の実現で元気を取り戻し、実行していく中で自由を感じる瞬間を増やしている。
- ・学習指導要領内での学びも重要視し、個人のペースに合わせて指導している。

思考の出発点を子どもたちの「幸せ」から「自由」へ！

幸せのレンズで子どもたちを見ると、**幸せとのギャップ**に子どもはげんなり、大人は委縮してしまう。
自由のレンズで子どもたちを見ると、**不自由からの解放の指針**を一緒に考えることができる。